

# 〈市内循環バス及び佐久上田線の廃止について〉

## 1 市内循環バス

### 路線廃止協議

佐久市地域公共交通網形成計画（以下網計画）に基づき、平成29年10月から運行を開始。医療センターを中心に佐久平・岩村田方面を回る北循環線と、臼田・野沢方面を回る南循環線を運行している。

### （1）現在の課題

#### ア 利用者数が少ない

細かなダイヤ改正、停留所増設、佐久大学生の運賃無料事業及び南北循環線の連続運行など改善を図ってきたが、利用者の増加はわずかな程度に止まり、R2年度の利用者数は1便あたり平均1.96人と低調に推移している。

※参考：R2実績（山手線4.77人、佐久御代田線5.92人）

#### イ 委託料について

年間約67百万円支払っており、利用者1人あたり4,867円と高額であるため、収支率の改善に向けて抜本的な見直しが急務となっている。

#### ウ 利用者に合わせた運行が必要

網計画策定時は、一般市民や観光客の利用を想定していたが、実際の利用者は交通不便者に限られており、交通不便者に特化した体系への移行が必要となっている。

## 2 佐久上田線

### 路線廃止届出済み

千曲バスの独自採算による自主運行路線で、運行区間は、臼田（勝間）から野沢・岩村田を経由し、小諸、東御及び上田市まで至り、全長は約45キロメートル、所要時間は約2時間の長大な路線である。

また、当路線は鉄道に沿った運行をしており、市町村をまたぐ移動の場合、利便性や運賃面で、当線よりも鉄道が優位となるため、ニーズを捉えられていないという課題があった。

### （1）経過

#### ア 沿線4市による負担金について

中仙道線と同様に、毎年、国・県から補助金の交付を受けているが、乗車密度が低いため、満額の補助を受けられていない状況が続いている状況の中、平成28年度に千曲バスから「赤字での運行となっていた当路線の廃止の申し入れ」を受け、沿線4市での協議のうえ、翌平成29年度から負担金で赤字を補てんすることで存続となり、以降当市からも負担金を交付している。（R2：6,183千円）

#### イ 路線の廃止について

昨今は運転手不足問題が深刻となり、負担金や補助金では解決できない状況となり、令和元年度には、運転手不足により利用の少ない便の減便を行い、運行を続けていた。コロナ禍による財政状況の圧迫も重なり、路線を継続していくことが困難となったことから、令和3年9月での路線廃止となった。

（自主運行路線のため、当協議会での協議は不要）

【R3.9末】循環バス及び佐久上田線を**路線廃止**し、

【R3.10～】

市内（市街地）の移動は、**新デマンド交通**で対応

- 両路線の停留所をそのまま活用し、市内の移動範囲をカバー
- ワゴン車での運行により**委託料を削減**
- 利用者のニーズに合わせて予約運行（8時～17時の中で自由に予約）
- 朝夕は、佐久上田線をベースにワゴン車での**定時定路線運行**
- A I 配車システムにより**効率運行**
- 市外の移動は鉄道で対応